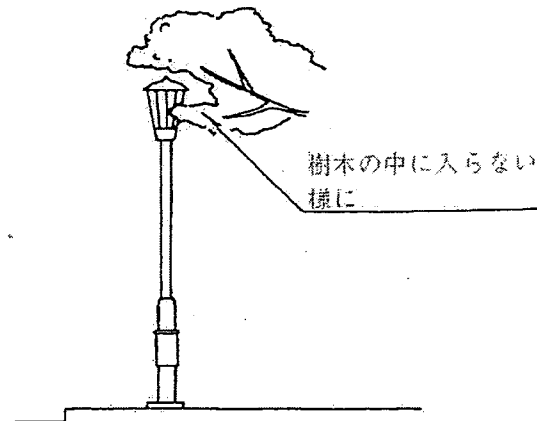


2-3 公園灯用鉄柱建柱

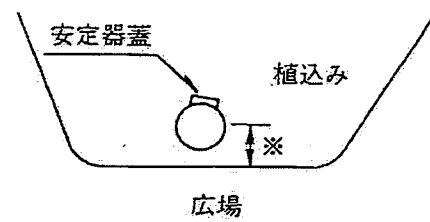
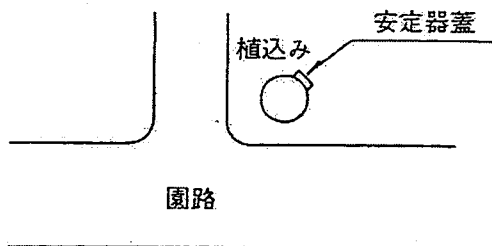
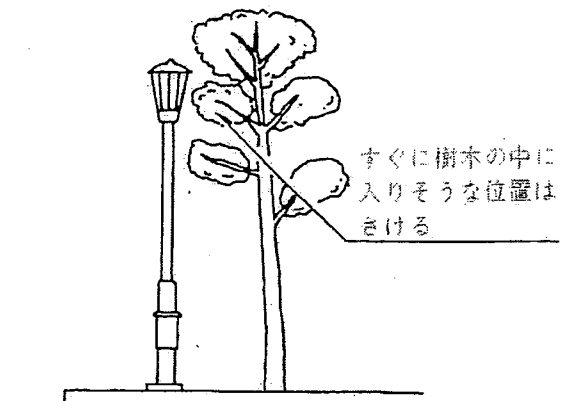
2-3-1 建柱位置

設計図書に明記された位置を良く確認のうえ、決定のこと。設計図に位置表示がなく下図のような場合は特に注意のこと。

(ア)



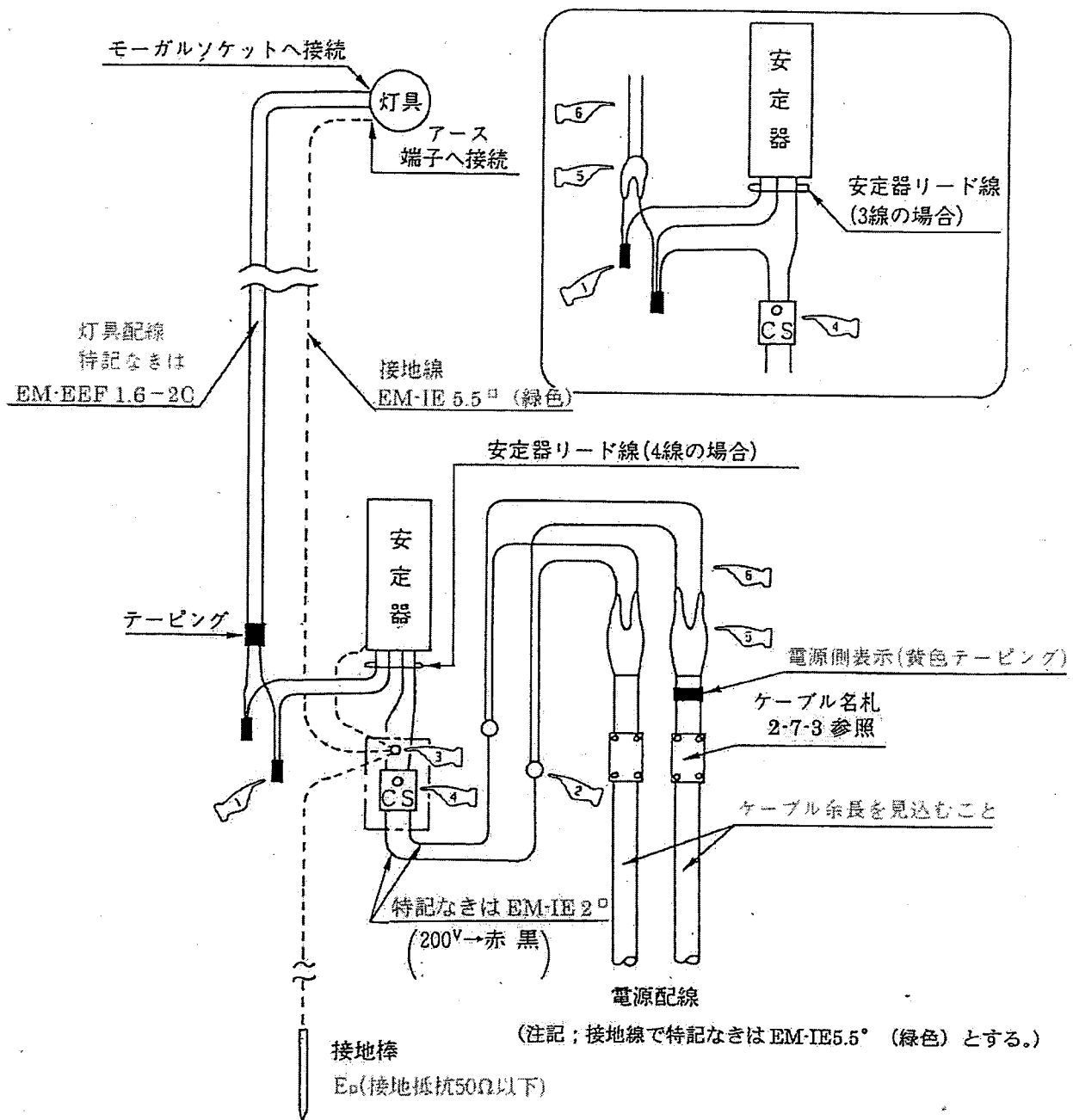
(イ)



※印 特記なき場合は700mm

2-3-2 鉄柱内配線処理

2-3-2-1 1灯用安定器1台の場合



- ① 直線重ね合せスリーブ (P形-5.5[□]) を使用する。 (2-7-2-2 参照)

② 圧着端子 (R形) を使用する。ただし、末端鉄柱の場合なし。 (2-7-2-2 参照)

③ 各々の接地線に圧着端子 (R形) を取付けスイッチ取付板用ボルトに接続。

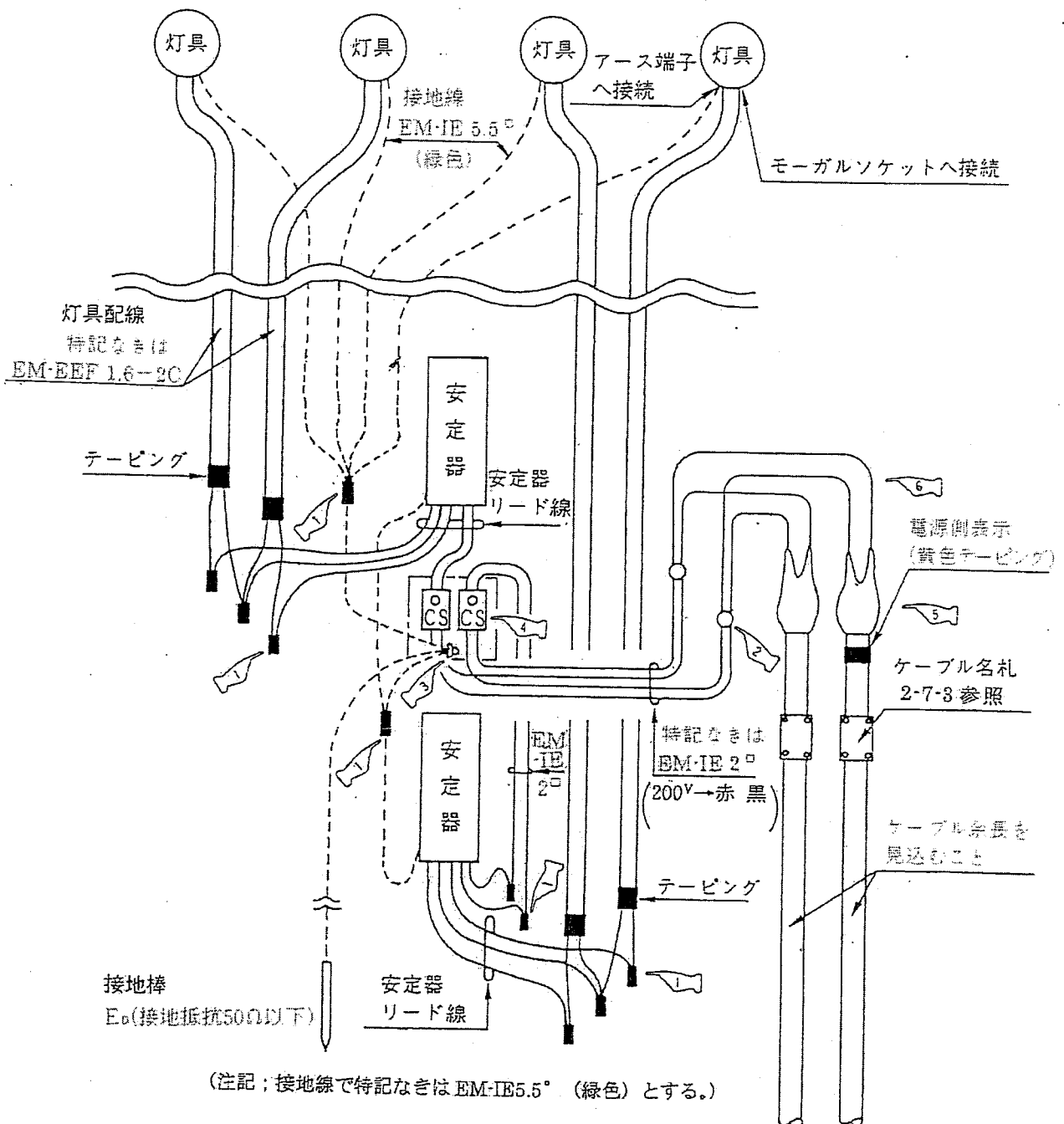
④ カットアウトスイッチ使用の場合
 カットアウトスイッチ (磁器製、5 A つめ付ヒューズ 2 本入り) × 1 個
 ・ 蓋上部半分に開放防止テーピングを施すこと

 ケッチホルダー使用の場合
 ケッチホルダー (塩ビ製、5 A つめ付ヒューズ 1 本入り) × 2 個

⑤ ケーブル端末処理。 (2-7-2-1 参照)

⑥ ケーブルの相表示色。 (2-7-1 参照)

2-3-2-2 2灯用安定器2台の場合

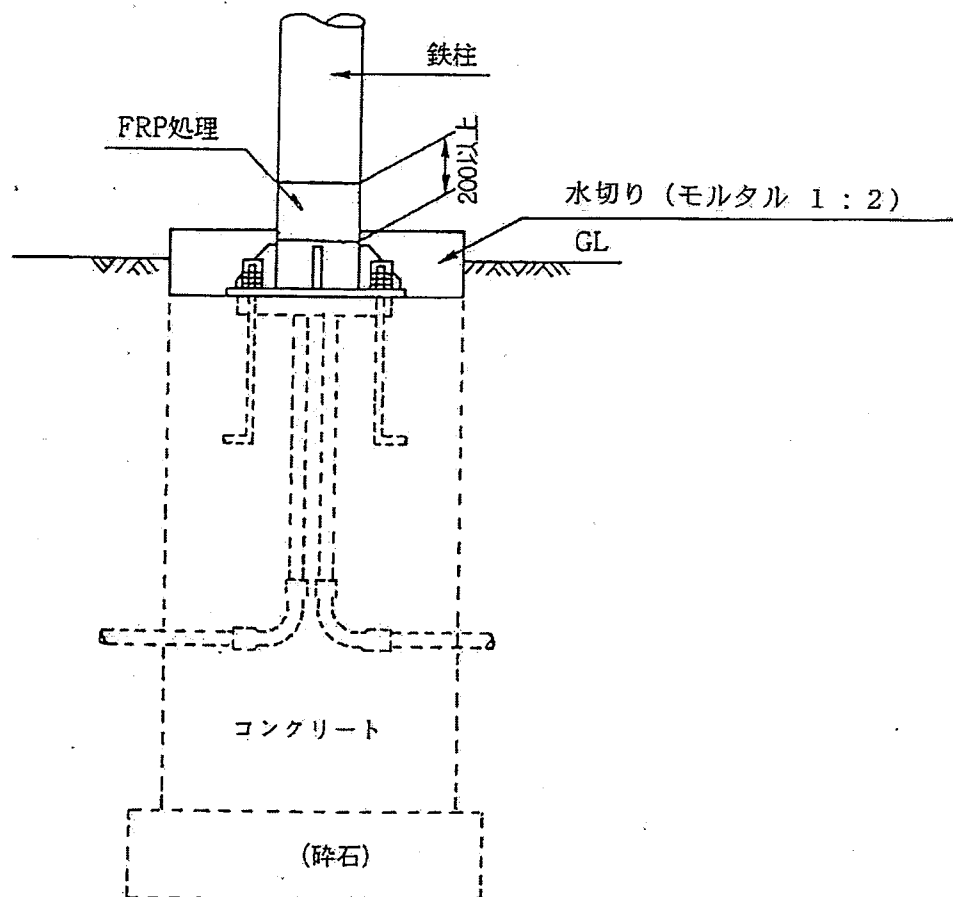


- ① 直線重ね合せスリーブ (P形-5.5[□]) を使用する。 (2-7-2-2 参照)
- ② 圧着端子 (R形) を使用する。ただし、末端鉄柱の場合なし。 (2-7-2-2 参照)
- ③ 各々の接地線に圧着端子 (R形) を取付けスイッチ取付板用ボルトに接続。
- ④ カットアウトスイッチ使用の場合
 カットアウトスイッチ (磁器製、5Aつめ付ヒューズ2本入り) × 1個
 ・蓋上部半分に開放防止テーピングを施すこと
 ケッチホルダー使用の場合
 ケッチホルダー (塩ビ製、5Aつめ付ヒューズ1本入り) × 2個
- ⑤ ケーブル端末処理。 (2-7-2-1 参照)
- ⑥ ケーブルの相表示色。 (2-7-1 参照)

2-3-3 鉄柱地際部防蝕処置

2-3-3-1 鉄柱地際防蝕処置（既設柱）

既設鉄柱の地際防蝕処理の方法は、設計図書の特記によるものとする。



紫外線硬化型FRP処理手順

1. 紫外線硬化型FRPシートを鉄柱に密着させるため、鉄柱表面をサンダー、または、サンドペーパーにて研磨し、アセトンにて洗浄することにより表面の脱脂、並びに、塵埃の除去を行う。(コンクリート部貼付け面は油性ウレタン系プライマーを2度塗りとする。)
2. FRPシート貼付け面に浮き上がり等が出来ないように確実に密着させる。
3. 防蝕処理の幅はリブプレート天端より $W=200\text{mm}$ 以上とする。
4. 硬化後サンドペーパーにて平滑に仕上げる。

2-4-1 ベースプレート式鉄柱用基礎

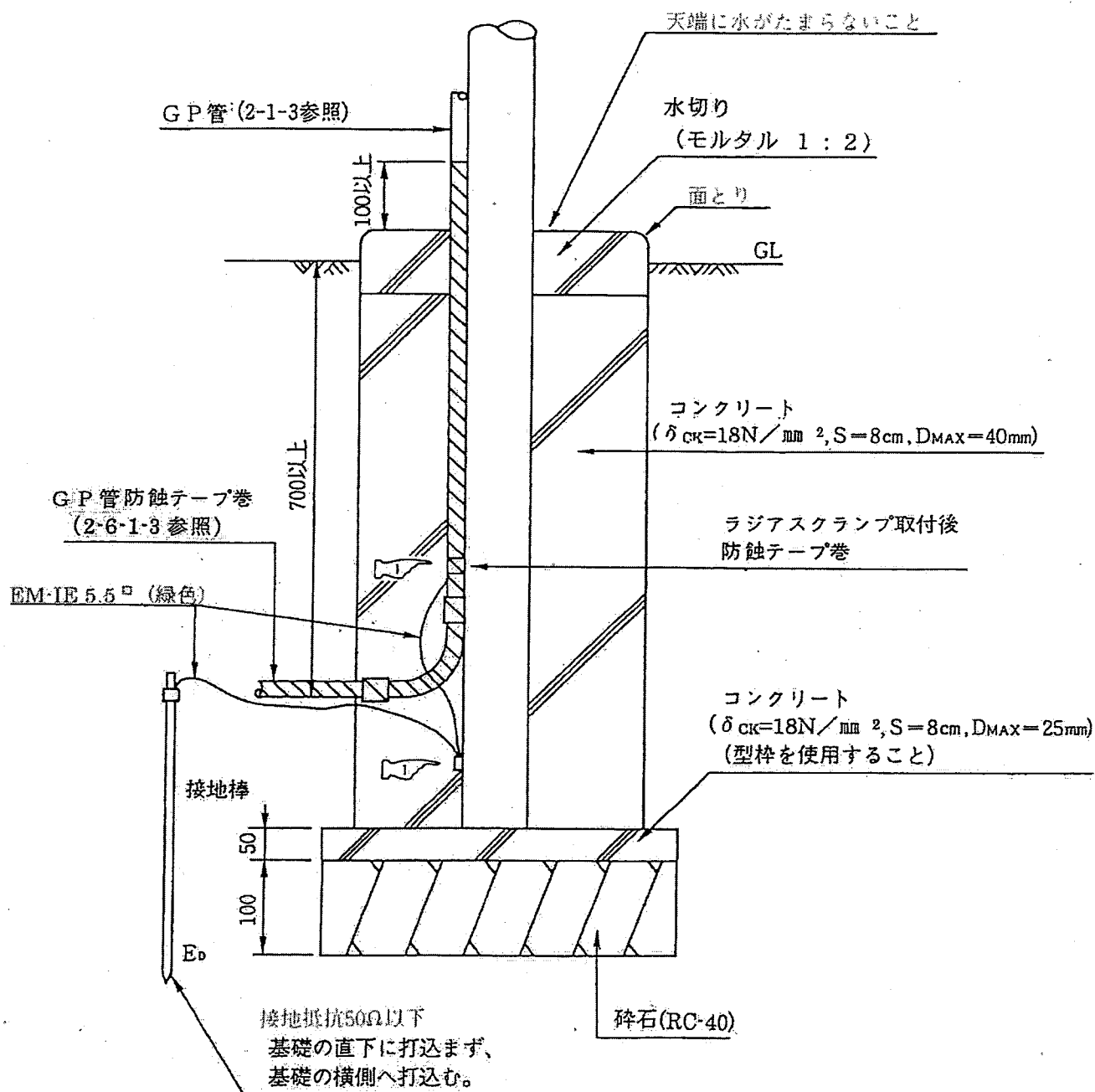


$\sigma_{CK} = \underline{\hspace{1cm}}$ (N/mm²) 4 週強度：打設後28日目の標準養生状態での圧縮強度
 $S = \underline{\hspace{1cm}}$ (cm) スランプ：コンクリートの固さ
 $D_{MAX} = \underline{\hspace{1cm}}$ (mm) 粗骨材の最大寸法

- 12 -

2-4-2 埋込式鉄柱用基礎

2-4-2-1 引込用鉄柱



写真撮影のこと

2-4-3 アンカーボルト、アンカーゲージ据付

